

IIS NEWS

☆ 秋田県における観測ロケットの実験 ☆

ペンシルロケットの地上水平試験は、本年4月、国分寺レンジで、また5月6月の両月生研構内の水槽レンジにおいて行われ、その内国分寺実験報告については本誌8月号でペンシルロケット特集号として編集された。その後このペンシルロケットに加えて、ペビー号のS型、T型の各機を上空に打揚げる実験が8月初旬から9月下旬

にわたって行われた。場所は、広い海面の得られる秋田県由利郡岩城町の道川海岸と決まり、秋田県庁初め秋田海上保安部、本荘警察署、岩城町関係者等の絶大な協力を得て、実験は快適に進められた。実験地は、秋田県有地で防砂用保安林育成中の地域に当り、秋田



ペビーT型ロケットが組上げられると空中につりあげて地上性能試験が行われる。

県の了解を得て、必要最小限の仮設小屋、掩蓋、ポール、ランチャー台等を建設し、8月は、強い日光にさらされながら野外作業に馴れることにもつとめつつ、ペンシルとペビーSの実験を終えた。9月中旬から下旬へかけてのペビーTは、

朝晩やや寒さを覚える天候とかわり、強風の吹く日は、飛砂に頭髪をまつ白にさせながら作業がつけられた。

かくしてペンシル6機、ペビーS5機、ペビーT5機の飛翔実験は、大過なく終り、あとは10月下旬から11月初旬にかけて行われるペビーRの実験を待つばかりとなった。この間、直接実験に従事する班員は、20~40名生研職員の外に、一部製作会社の技術者も加わっての構成であり、近づくRの記録回収作業には、秋田海上保安部員が実験班の一員となって活躍されることになっている。

附記 ペンシル 全長30cm, ペビー 全長92cm~150cm, Sはシンプル Tはテレメータリング, Rはリカバリーの略語。

☆ 講 演 ☆

◇ 助教授 植村恒義 大学院学生 森重照夫 「超高速写真による各種管体の破壊機構の研究」第5回応用力学連合講演会 東大工学部において (1955.9.8)

◇ 研究員 大和田 信 「燃線の製造過程がその弾性特性におよぼす影響」同上 (1955.9.9)

◇ 研究員 野本 明 「対数根軌跡法」同上 (同上)

◇ 助教授 水町長生 「ラジアルガスタービンの研究 (第1報)」日本機械学会秋季臨時大会 北大工学部において (1955.9.18)

◇ 助教授 浅原照三 「金属塗装の前処理」日刊工業新聞社主催講習会 (1955.9.26)

◇ 教授 糸川英夫 「ロケットについて」日本機械学会日立地方講演会 日立製作所労働会館において (1955.9.30)

IIS NEWS

筆 者 紹 介

◇ 福田 武雄 教授 工博 専攻 土木構造学
 ◇ 丸安 隆和 教授 工博 専攻 測量学・土木構
 造学
 ◇ 大島 太市 助手 専攻 同上
 ◇ 岡本 舜三 教授 工博 専攻 構造力学
 ◇ 末 七郎 技官 専攻 同上
 ◇ 安中 久二 熊本大学講師 専攻 同上

◇ 勝田 高司 助教授 工博 専攻 建築環境学
 ◇ 後藤 滋 助手 専攻 同上
 ◇ 鈴木 弘 教授 工博 専攻 塑性加工学
 ◇ 浅原 照三 助教授 工博 専攻 油脂化学・石油
 化学
 ◇ 三好 淑子 技術研究生 専攻 同上

編 集 委 員

編集委員長 岡 宗次郎
 編集委員 *末 岡 清市
 谷 安 正
 松 永 正 久

編集委員 平 尾 収
 植 村 恒 義
 丹 羽 登
 沢 井 善 三 郎
 武 藤 義 一

編集委員 中 村 康 治
 中 村 亦 夫
 *三 木 五 三 郎
 浜 口 隆 一
 星 野 昌 一
 編集幹事 下 村 潤 二 郎
 編集室 水 野 晴 明
 (* 印当番委員)

本紙の実費頒布をご希望の方は下記へ照会下さい。

千葉市弥生町1
 財団法人
 生産技術研究奨励会
 振替口座東京 108697

第7巻 第11号 生産研究
 1955年11月1日発行

編集者 岡 宗次郎 印刷者 三美印刷株式会社
 発行者 星 合 正 治 発行所 東京都千代田区神田多町2の7
 東京大学生産技術研究所
 千葉市弥生町1
 電話千葉 366-370

(本誌は生産技術研究所の研究紹介誌として、毎月1回発行する)